

## 第3回国連防災世界会議にかかる国内準備会合（第3回）議事概要

日時：平成26年5月30日（金）10:00～12:00

場所：三田共用会議所1階 講堂

出席者：大西座長、伊藤、今村、内堀、金谷、柄澤（斎藤代理）、佐々木（岡田代理）、杉本、田村、千葉、堂道（植澤代理）、富田（山澤代理）、名執、林、藤井、松浦、目黒、山本、弓削、若生（宮原代理）の各委員

古屋内閣府大臣、日原政策統括官、齊藤参事官、中島企画官（以上、内閣府）、菅沼第3回国連防災世界会議担当大使、香川地球規模課題審議官、狩俣企画官（以上、外務省）他

### 【古屋防災担当大臣による冒頭挨拶】

### 【第3回国連防災世界会議の準備状況】

事務局より、国連との調整状況として、ジュネーブにおけるビューロー会合の開催状況、世界各地における地域プラットフォームの開催状況、今後のスケジュール等について報告するとともに、仙台市より、関連事業の公募に向けた準備状況、語学ボランティアの募集の取組、東北の防災・復興パビリオン開催の検討等について報告がなされた。

### 【ポスト兵庫行動枠組の策定に向けた検討について】

事務局より、資料に基づき、ポストHFA策定に向けた日本提案の骨子案の説明を行い、各委員よりご意見をいただいた。主な意見は以下のとおり。

#### （ポストHFAの構成について）

- 「より良い復興」を新たに柱建てした点は非常に重要であり、東日本大震災からの復興で取り組んでいる、災害に強いまちづくりや中長期の課題を先取りした地域産業の振興などは、今後の災害対策や、他の地域にとっても貴重な教訓になる。
- 骨子案で示されている優先行動は、防災のフレームワークであり、防災体制がまだ十分でない国にとっても分かりやすいように、優先行動という形でキャッチフレーズを付けた方が分かりやすいのではないかと。また、防災関係者にはなじみがある構成だが、現行のHFAで強調されているリスクの特定は前面に打ち出す必要がある。以上を踏まえ、リスクの特定、特定したリスクに対する事前投資、応急対応の準備及び復興事例の学習という順にしてはどうか。
- 骨子案は、災害予防への投資、啓発等を主体とする準備、そしてより良い復興と、時系列に整理されている点、それらを多様な主体や研究、科学が重層的に支える点、そして全体をガバナンスで結んでいる点から、コンセプトが非常によく整理されている。特に、災害が開発に甚大な悪影響を与え、貧困から抜け出せないという悪循環を断つための、災害予防への投資の考え方が十分に反映されていて、国際的な流れとも整合している。
- 今回の世界会議が東北で開催されることを踏まえるとリカバリーの柱建てを新たに追加することは重要であるが、それ以外については、現行のHFAの5本柱を残しながら、それらに新たな要素を足し込んでいった方が共感を得られるのではないかと。
- 本日はポストHFAのコンセプトに関する議論がなされたが、これを世界に発信することによって実際に世界の災害が軽減されることが大事であり、世界各国の方々がうまく使えるための仕組みを同時に考えて、入れ込んでいく必要がある。

- 「防災」とは、事前の抑止、対応、復旧と、トータルで災害をマネジメントするという概念であり、日本の防災を世界共通語の **BOSAI** としてアピールするという方法もあるのではないかな。

#### （数値目標、統計について）

- 定量的な数値目標は、災害被害削減のための事前のインフラ整備を進める上で大変有効であり、かつ政府だけでなく、民間企業、地域団体に至る多様な主体を巻き込んで推進する仕組みをつくる必要がある。
- ポスト HFA における戦略目標については、ポスト 2015 開発アジェンダに防災を位置付けることの重要性に鑑みると、インプット指標ではなく、ゴール、ターゲット、アウトカム指標という形で考えるべき。
- 災害統計や指標は防災の主流化の基礎となるものであるが、総論賛成、各論反対という状況であり、世界会議において、いかにこれを位置づけ、世界共通にさせるかが非常に重要。

#### （国土強靱化、レジリエンスについて）

- 国土強靱化の考え方は、特定のリスクへの対応ではなく、自分自身を強くすることであり、また、まずは致命傷を避ける、次に可能な限り減災を行う、そして災害を受けた際には可能な限り迅速に回復するという3つの複合概念で定義されており、防災の取組をバックアップする理念として位置付けてほしい。
- 国土強靱化の重要な理念は、平時の活動、平時の仕組みに、有事対応という理念を溶かし込んでいくことであり、全ての優先行動においてこの観点を配慮いただきたい。
- 災害を基点としてそれを防ぐという考え方では新しさが感じられない。災害に強いだけでなく、経済も強くなるし、貧困も無くなるし、環境にもよいというように全体的な体質改善を図り、そうした方向に投資や関心が集まり、より多くの人が参画する、と見えるように工夫してはどうか。
- 「resilience」は国際的にも重要な言葉として使われているので、これをどういう概念で整理して、どこで使うのか、整理が必要である。

#### （東日本大震災の教訓）

- 東日本大震災においては、これまで要援護者として捉えられていたグループが避難所運営の貴重な戦力となった事例が多数あり、こうした能力の活用を考慮すべきである。
- 震災の記憶を後世につなぐ仕組みづくりとして、被災施設を震災遺構として保存し、様々なデータを発信する拠点として整備していくことも重要である。
- 事前に作成した実施要領により、震災発生後の瓦礫処理を目標より早く達成できた事例から、災害後のニーズアセスメントを含む対応手順を事前に定めておくことは重要である。
- 東日本大震災の教訓の伝承や防災教育は、災害の発生頻度を考えると、非常に長期間に渡って持続的に行う必要がある、そのような視点が重要である。
- 東日本大震災の教訓として、地方政府同士による的確な受援・応援体制の構築の有効性、平時における関係機関の連携が迅速な被災地支援につながったこと、同時被災した複数の市町村を支えた広域自治体の役割等を紹介することは、開発途上国にとって参考になる。
- 東日本大震災の経験を踏まえ、複合災害を常に想定した災害リスク軽減の視点を位置付けることが重要であるとともに、国内外からの多くの世界会議参加者に、複合災害からの復旧・

復興の取組の現状を実際に見てほしい。

#### （その他の重要な事項）

- 災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントをもう少し明確な形で位置付けるべき。
- 今後の新たな課題として、気候変動が重要になってくると思われるので、気候変動の取組に重要性を当てた形で盛り込んでいただきたい。
- 科学技術の立場から防災にどのように貢献するかについて、ナショナルプラットフォームの役割、「見える化」の推進、防災と地球観測との協働、現場の活動と研究者との協力、国際的なネットワーキングが重要である。
- ポスト HFA を考える際には、心身の健康をリスク軽減・リスク管理の目標として取り組んでほしい
- ビッグデータやデジタルデータに対応する、ナショナルアーカイブ等の組織も必要である。
- 学校は避難所として活用されると同時に、防災訓練等コミュニティの防災拠点としても非常に重要な役割を有しており、こうした点を踏まえた防災教育が重要である。
- 国際緊急援助隊の迅速な派遣のため、被災国が国の枠組を超えて近隣地域からの第一次応援を受けるなど、各国の受入れ体制の整備が必要。
- 将来の国内外での大規模災害を念頭に置いた場合、自国のリソースだけでは救援力、災害対応技術力の不足が考えられるため、海外からの援助の受け入れについての法的枠組みや手順の整備もご検討願いたい。
- ポスト HFA の名称については、国際的な定着性、世界会議のアピール性、どのようにして名前を提案していけるのかというテクニカルな問題などを整理する必要がある。
- 来年3月の世界会議を成功させるため、ポスト HFA の提案を早くまとめ、早目に打って出ることが重要である。

#### 【国連防災世界会議に向けた日本の市民社会の取組】

2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク（JCC2015）の大橋代表にご出席いただき、同ネットワークの活動目的、ポスト HFA への提言内容の検討状況等についてご報告いただいた。

#### 【我が国の知見、復興の現状等の発信について】

事務局より、世界会議関連事業について、「東日本大震災の経験や教訓、震災からの復興を世界へ」というテーマで開催する総合フォーラムの準備状況について報告するとともに、各委員よりご発言をいただいた。

- 世界会議のプログラムに、日本の持てる防災技術をアピールする機会を盛り込んでほしい。
- 先週打ちあがった人工衛星「だいち2号」は昼夜や天候を問わず、定期的にデータを観測することができ、防災への活用の幅が拡大しており、世界会議の場を含め、国の重要なインフラとして位置付けられるようにしていきたい。

#### 【第3回国連防災世界会議記念切手の発行について】

事務局より第3回国連防災世界会議記念切手の発行についての具体的なスケジュールとコンセプト案の作成に向けた検討についての説明がなされた。

（以上）